

平成25年度
草津市教育委員会事務
外部評価委員会 会議録

第3回会議
(平成26年7月29日開催)

草津市教育委員会

外部評価委員	委員長	糸乗 前
	委員	山川 紀子
	委員	前田 麻子
教育委員	委員長	馬場 輝代
	委員	村山 美智子
	委員	麻植 美弥子
	委員	谷川 尚己
	教育長	川那邊 正
議事参与	教育部長	白子 與志久
	教育部理事	宮地 均
	教育部副部長（総括）	小寺 繁隆
	教育施設整備室長	吉川 寛
	教育部副部長（街道交流担当）	八杉 淳
	教育部副部長（図書館担当）	石田 泰治
	教育総務課長	山本 美佐子
	生涯学習課長	奥谷 美津子
	スポーツ保健課長	高岡 良秀
	文化財保護課長	谷口 智樹
学校教育課長	中瀬 悟嗣	
事務局	教育総務課副参事	松浦 正樹
	教育総務課主事	齋藤 美咲

開会 午後 1時15分

教育総務課長

それでは、ただ今から、平成26年度第3回草津市教育委員会事務外部評価委員会を開会いたします。

本日は、まず、前回までの会議録について御承認いただきました後、教育委員に入っていて、懇談を進めていただく予定でございます。

終了予定時刻は2時15分ぐらいを考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、糸乗委員長に、司会、進行をお願いいたします。

糸乗委員長

どうもこんにちは、糸乗です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、時間も限られておりますので、早速、始めさせていただきたいと思っております。

最初に、第1回、第2回の外部評価委員会の会議録の確認をさせていただきます。事務局の方から、私たち、事前に配付していただいているものですが、その内容についての御意見等がございましたら、確認させていただきたいと思っております。

山川委員

失礼します。誤字と申しますか、その程度ですけれども、3点ございます。1回目の18ページ、私が話しているところでなんですが、ひょっとしたら、こういう言いかたをしたんだと思うんですが、下から10行目、「何かそういう広報なんかにもちょっといただいれていただく」とか、ちょっと日本語としておかしいかなと。できましたら、「いただ」を消していただくと、可能であれば。

それと、33ページ、下から13行目、校長先生も強い教育感という、感の字が観察の観に変えていただきたいと思います。

それと、第2回目、34ページですが、真ん中より少し上に、「柏原」これは大阪府ですので、橿原神宮の「橿原」に変えていただきたいと思います。以上です。

糸乗委員長

御確認いただけましたでしょうか。

1点目のところの削除の部分と、あとは文字等ですね。というところですか。前田委員どうでしょうか。

前田委員

私も1点だけ、誤字と申しますか、打ち間違いなのかわからないけど、1回

目の36ページの、私が話しているところの、下から3行目、「すごくいいなと」なっているんだけど、「すごく良いなと」かなと。私は以上です。

糸乗委員長

僕も1字だけ、誤字です。2回目の19ページ、真ん中のあたり、僕が発言している、冒頭、「各」という、「各質問になるんですが」、という、ちょっとわからなかったんですが、多分、なしでも良いのかなと。「質問になるんですが」、で良いかと思います。

誤字のところは訂正していただくという形で、内容に関しては、私たちの発言なので、それぞれに応じて発言してきた内容ですので、変更というのはないということによろしいでしょうか。

学校教育課長

学校教育課 中瀬でございます。今まで、2回、御審議いただいたのですが、こちらの方で資料を見ていく中で、まことに申しわけない、訂正をお願いしたいと思います。と申しますのは、32ページの実績の項目の欄で、上から2つなんですけど、電子黒板活用の推進というところで、指導を受けた教員の割合というふうになっておりますが、これは25ページにも同様の事業名がございまして、その項目には電子黒板を活用する教員の割合というふうに書かせていただいています。同じ意味で書いておるわけですが、わかりにくいので統一させていただきたいと思いますので、32ページの(17) - 1の2つの項目について、電子黒板を活用する教員の割合というふうなことで、修正をお願いできたらありがたいと思います。以上でございます。

糸乗委員長

前回の資料では、指導を受けた教員の割合ということになっていて、この新しい報告書は直した形でしていただいているということですね。

学校教育課長

申しわけございません。

糸乗委員長

新しい方を見る限りは、既に変更しているということですので、それが前回の資料との変更ということで、御了解いただけますでしょうか。

教育部副部長
(図書館担当)

会議録の第2回会議の部分ですが、27ページの図書館の項で、回答させていただきました、登録者人口はそんなに多くないんですと、ヘビーユーザーというんですか、という、ここのヘビーユーザーというのが、かなり適当でない表現でしたので、子どもからお年寄りまでの、年代を問わない熱心な利用者という形で訂正をいただきたいと思います。ちょっと適当でなかったと反省しております。

糸乗委員長

そのほか、ございますでしょうか。

テープ起こし、大変だったと思いますが、それに対応していただいていると思います。

それでは、第1回と第2回の外部評価委員会会議録、一部修正、報告書も一部修正ということでありますけれども、承認いたしましたので、一旦、事務局に進行をお返しいたします。

教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、続きまして、教育委員と、外部評価委員の懇談へと移らせていただきます。教育委員が参りますまで、いましばらくお待ちいただきたいと思っております。

(教育委員入室)

それでは、これより、外部評価委員と教育委員の懇談を始めさせていただきます。

初めに、懇談を始めるに当たりまして、川那邊教育長がごあいさつを申し上げます。

教育長

こんにちは。外部評価委員の皆様と教育委員の懇談を始めるに当たりまして、ちょっとごあいさつ申し上げます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中を、また大変お暑い中、これまで2回にわたって熱心に御議論いただきましたこと、厚くお礼を申し上げます。

皆様に御議論いただきました、点検評価報告書につきましては、本市の教育振興基本計画の施策体系に沿った評価項目を明確に列挙し、実績等について具体的な数値で示すとともに、主な取り組みの成果や目標実現のための、今後の課題等についても記載内容の充実に努めているところでございます。

まだまだ、行き届かない部分もあるかと存じますが、皆様からの御意見を参考にしながら、今後も創意工夫を重ねてまいりたいと考えております。

さて、今年度は平成22年度に策定いたしました、本市の教育振興基本計画の見直しに着手しております。さきの会議、そして本日の懇談の中で、皆様からいただきました御意見や励ましの言葉を新たな教育振興基本計画の施策にも生かし、さらなる草津の教育の発展につなげてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

簡単ではございますが、第3回目の外部評価委員会に当たりましてのごあい

さつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育総務課長

それでは、糸乗委員長、会議の進行をよろしくお願いいたします。

糸乗委員長

どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日の外部評価委員会の中での教育委員の皆さんとの懇談のテーマということで、「教育委員会事務の点検・評価、（平成25年）について」と。副題としまして、「これからの教育委員会に期待すること」となっております。

私たち、外部評価委員は、今年度の外部評価を進める中で感じたことや、草津市の教育委員会に期待することを懇談会の中で述べさせていただきたいと。それで、草津の教育行政というのですか、そういうところに、お役立ていただければありがたいなと思っております。

それでは、初めに、私たち外部評価委員会から自己紹介を兼ねて、今回の外部評価を行った感想を述べさせていただきます。

ずっと座ったままになっておりますが、最初に私の方からさせていただきたいと思います。私は滋賀大学教育学部、教員養成学部で教員をしているという関係で、こちらの方に来させていただいております。個人的には草津市の方に14年ほど前から、こちらの方に来させていただいていまして、子どもたちが幼稚園、小学校、中学校、高校という形で、草津市の教育をまさに受けさせていただいて、その間、見させていただいたという意味で、そういう視点で見させていただいてきたかなと思います。

また、地域では組長とかも経験していますので、そういった活動についても幾つか見せていただいているということで、そういった形の目線で、この外部評価をさせていただいたかなというふうに思っております。

感想としましては、今回の外部評価委員会で報告書も含めて、御説明していただけてきたんですけれども、本当にたくさん取組をなされているということを感じさせていただきました。知らないこともたくさんあったので、非常によくやっていただいているんだなということを感じました。それには、草津市の教育委員会で行われている、さまざまな取組というのを、まずは報告書として説明できるような形でまとめられていて、しっかりと説明責任というのですか、そういうことをされているということは非常にすばらしいことだなと思っております。

今後としましては、それぞれの事業の中で、恐らく、更にこうした方が良いんじゃないかなという声が出ているのかなというふうに感じますので、そういった声を少しでも拾いあげていただいたりしたいなというふうに感じております。外部評価も多分、その1つになるのだらうと思っておりますので、是非継続して

いただければありがたいなというふうに思います。

更にですけれども、こういった取組というのは、どうしても比較したくなるというのですか、そういう感じが出ました。前回の会議の中のところでも質問のような形であったんですけれども、具体的にはほかの教育委員会ではどういう形になっていますかという質問とかもあったんですけれども、中には広報紙の「コンパス」であるとか、そういう発行というのはほかのところからお問い合わせを受けたというようなお話も聞いていますので、そういった、良い取組ですよ、そういうところがあって、ほかのところの手本になるような、先端を走っていただきたいなという期待を込めて、そういうところを期待して見させていただいたということになります。まずは、僕の方から感想を述べさせていただきます。

それでは、次に、山川先生、よろしく願いいたします。

山川委員

皆さん、こんにちは、山川と申します。6年前まで草津市内の小学校に勤めさせていただきました。今回、このような大役を仰せつかりまして、本当に御期待に応えられるような意見等を述べることができなかつたと反省しております。

この機会に草津市の教育をいろいろ、インターネット等で調べさせていただきました。平成23年に示されております、草津の教育が目指すものの理念の中に、教育とはまさに子どもの心に火をともし作業であるというようなことが書いてありました。私も同感いたしております。

私が勤めさせていただいておりましたころの記憶をたどってみましても、学校教育の分野ですが、一人一人の子ども理解のためのサポートや、教育機器を使った指導の工夫、子どもたちに英検や漢検を受けさせる、そういうチャンス等、いろんな施策を草津市では、全国、県に先駆けて熱心に取り組まれているなということを勉強させていただきました。子どもたちの意欲にすぐに結びつくものもあれば、一、二年、ひよっとしたら、義務教育が終わるころでも、まだその成果が、変容が見られないかもしれませんけれども、これらの蓄積がきっと実を結ぶのではないかなというふうに信じております。

子どもが輝く教育のまちというふうにうたわれていますけれども、その実現に向けて、限られた予算の中ではあるとは思いますが、これからも有効な施策や事業の展開をお願いしたいなと思います。

また、教育長が振興計画の見直しということを言われていましたので、そういうことも踏まえながら、より良い草津の教育をつくっていただけたらなと思います。

前田委員

前田麻子と申します。座ったまま失礼いたします。

私は長男が中学1年生、長女が小学校の6年生で、市内の学校に通ってお世話になっております。

今回、このような機会をいただき、ありがとうございました。2回にわたって草津市の教育に関する事業とか、具体的な活動内容をお聞かせいただいて、その中での効果や課題について、一保護者の立場として、難しいことはわからないんですけども、的外れではあったかもしれませんが、いろいろ質問させていただき、また、感想も述べさせていただきました。私自身、草津市の教育について、すごく勉強になって、感謝しております。

感想であります。小中学校の行事は、参観とかいろんなことで、ある程度知っているんですが、今回、外部評価委員をさせていただいて感じましたことは、保護者として参加している、いろんな小中学校の行事とか、子どもたちが参加している地域行事、また、学校でのいろんな教育環境ですね、ICT化とか英検とか、漢検とか、読書の推進とか、いろんな私たちの目に見えている取組の土台に、草津市のいろいろな課のかたがたの施策やお考えがあるということがわかりました。

また、その中で目標に対する評価もAとか点数が高いものばかりで、いろんな課題に対しても、どのように対応されようとしているのかも説明していただき、理解することができました。

また、学校とかだけじゃなくて、地域とか家庭とか、学校とかが全部、連携して、子どもたちの学びの支えとなって、一緒に学んでいこう、成長を見守っていこうという、草津市の教育への姿勢にすごく安心して、すばらしいと思いました。以上です。

糸乗委員長

どうもありがとうございました。

それでは、教育委員の皆様の自己紹介を兼ねまして、既にお配りいただいていると思うんですけど、会議録の感想も交えながらお願いしたいと思います。

馬場委員長からよろしく願いいたします。

馬場委員長

委員長の馬場と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私がこの点検にかかわらせてもらうのは4回目になります。毎年、これに参加させてもらう中で、いつも思うのは教育委員会も学校もがんばっているというのが本当に偽らざる気持ちです。

その中で、毎年、なお乗り越えていかねばならないというところへんに、現場の大変さを感じながら、それでもやっていくという姿勢は草津の一番の原動力なのかなというふうに思っています。

多分、この冊子を見て、誰もが思うことは、ものすごく時間をかけて、これやってくれはったんやなど。現場もそうですが、事務局も。ほかの仕事が楽になるわけではない中で、まとめてもらっているということに。まとめながら、次の課題を見つけ出しというところへんがあるので、まとめることも大変意味があるのですが、それをやってもらっている職員の皆さんは黙ってはいはるけれども、すごい大変やろなというふうに思います。それが、この勢いのある草津の教育の一番の原動力やなというふうに思っています。

いろんな施策の中で、私も現場の教師をしていましたので、私が現場にいたころに比べて、耐震の工事もすごく早かったし、教育委員会の取組が素早かったので、そういう、まず安心の面から取り組み、そして今は機器の充実もありということで、更に子どもたちの成長に伴った形の手だてをどういうふうに打っていくかということが、かなり前もって進んでいるので、他の市町に比べても先見の明があるなというふうに思います。

それを踏まえながら、原点に戻って、子どもに向き合う教師や親、また地域が力をつけていかんとあかんということも、今、感じています。以上です。

糸乗委員長

次に、村山委員、よろしくお願いいたします。

村山教育委員

村山美智子と申します。私は前田委員さんと一緒に、教育委員の4人の中の保護者枠ということで、今、3年目ですかね、3年前ぐらいからこちらで教育委員をさせていただいています。やっぱり、応募するときの最初のきっかけとか、一番の動機というのは子どもが、うちは一人っ子なんですけれども、中学校に入る前に、本当にわからなかったんです。この先、どんな教育が待っているのかというのが、すごく不安というか。こういう役があるということで、高みからと言ってはあれですけど、実際のところを見てみたいという、かかわってみたいというのがありました。多分、上のお子さんがいらっしゃらないかたは、特に初めてのことで、そういう不安を持っている保護者のかたはたくさんいらっしゃると思います。そういうかたがたのためにも、こういう外部評価ですとか、こういうことをやっているとか、コンパスとかそういうのが、よりたくさんの方の皆さんの目に触れられるようになることが大切なんじゃないかなというふうに思いますし、うちはもう高校に入って、市内の中学を卒業してしまいましたけれども、前田委員さんのように、常に現役でというか、その場がかかわっておられるかたの御意見がいただけるというのは、ものすごく貴重なことだなというふうに思いました。以上です。

糸乗委員長

ありがとうございました。

それでは、次に麻植委員、よろしくお願いいたします。

麻植教育委員

麻植美弥子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は娘が3人おります。全て市内の小学校で学ばせていただいて、母親の顔も持っているんですけども、3人とも我が家は不登校でした。それで、ちょうど、私が公募で手を挙げさせてもらったときに、大津のいじめの問題でした。子どもたちに向けて、本当にいろんなかたに支えてもらって、大学まで全て出て、今、もう社会人なんですけれども、恩返しという意味と、あとは、どういことが親にとったらとてもありがたい、うれしいことなのかとか、経験値ももとしながら、母親という立場と、あと私は和楽器を演奏しますので、日本のよさ、草津のよさ、アイデンティティーの大切さというのもしっかり子どもたちだけではなく、市民のかたがたにも伝えたいなという、いろんな思いがありまして、させていただいています。

この文章の中でも、山川委員の方から伝統芸能の部分のことを37ページに書いてくださっているんですけども、この点検評価を私も見させてもらっている中で、先ほど、教育長がおっしゃいました、ことしは草津市教育振興基本計画の見直しの年なんですけれども、これがいかに大事か。どういうことかという、施策にあがっていないものに関しては、多分、予算もなかなかつきにくいし、こうして評価をしてもらいながら、より一層良いものにしていくということも、なかなか施策にあがっていない、項目にあがっていないことというのは、なかなか難しいんだろうなと。ことしの計画の見直しというのは大事なことだろうなというのを感じました。特に、伝統芸能とかの傳承に関しては、学校でどのような取組ができていくのかとか、そういう人の心を豊かにするというものの中には、文化的なものは子どもたちの項目に入っていないんです。市民の文化の振興という部分ではたくさん入っているんですけども、実際、現場では確かにものすごくされています。ふるさとを大事にしようというものもいろんな取組まれているんですけども、施策にあがっていないために見えてこないというのを感じましたので、ことしの基本計画、本当に前向きにいろんなものが網羅されていないものもあるだろうと思いますし、皆様の御意見をいただいたのも大切にしながら、それと、さっきおっしゃってくださった、いろんな第三者の目を見た御意見もいただきながら、より一層良いものに、振興計画がなればなというふうに思っています。ありがとうございます。

糸乗委員長

それでは、次に谷川委員、よろしくお願いいたします。

谷川教育委員

谷川尚己と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

教育振興基本計画の基本理念を、まず見させていただいたんですけれども、子どもの今と将来にわたって輝けるという、それが基本だと思いますので、それに向かって、今後も進んでいっていただけたらというふうに思っています。

私、現在、スポーツ大学で保健体育、中高の保健体育の教員を目指す学生と一緒に仕事をしておりますので、スポーツ、健康について感想を述べさせていただきます。保健体育の目標というのは、生涯にわたってスポーツを続ける、あるいは健康に留意して、自分の健康は自分で守るんだという、そこが中心になるかと思うんですけれども、これは目標7にもかかわってきますけれども、そういった力を子どもたちにつけさせていただけたらというふうに思います。その中で、体育、スポーツ面に関しては結構、書いてあったんですけれども、ちょっと健康面については少ないかなというのが気になりました。いろんな健康問題が出てきていますので、健康面を踏まえて、自分で自分の健康は守るというものが、もう少し入ってくれば、更によかったのかなというふうに思いましたのと、スポーツを続けるという面では、あまり新体力テストの点数は0.1ポイント低いとか、高いとか、それはあまりこだわらなくても良いと思いますので、それよりも、将来にわたってスポーツが続けられるように、総合型地域スポーツクラブがもう少し充実していけば、良いのかなと。そのためには、自主財源をいかにして捻出するのかという、そういう総合型のクラブができれば、より子どもたちの受け皿ができて良いのかなというふうに思いました。

それから、前田委員のスポーツ少年団の話なんかをちょっと読ませてもらったんですけれども、感謝とか礼儀って、結構、少年団から言うんです。でも、子どもってもっと楽しさを教えてやる方が大事じゃないかなというふうに思うんです。どうも、マスコミも高校野球もそうですけれど、美談として取りあげるのも、もっと自然体で、素直なあいさつができる、そういう指導をしてくれる指導者がふえると良いかなというふうに思います。というのは、結構、変わってないんです、指導者が。昔の指導体系のままで、子どもの将来を考えない、今の小学校時代の子どもの結果ばかりを期待する、そういう指導者が多いので、それはちょっと、先ほどの1番の基本理念にそぐわないんじゃないかなと思っています。

あと、3つ目に人権にかかわる話ですけれど、去年の中学校の共同制作が素晴らしいものだったので、これはやっぱり草津の伝統かなというふうに思います。人権を大切にするというのは、今後も続けてほしいなというふうに思いました。更に、スポーツ大学というと、スポーツはするけれども本は読まないという学生がいっぱいおりますので、図書館司書とか、そういう充実、そちらの充実の方もしていただけたらありがたいかなというふうに思いました。

この報告書、本当に御苦労さまでした。

糸乗委員長

ありがとうございました。

最後に川那邊教育長、よろしくお願いします。

教育長

教育長の川那邊でございます。

今回は外部評価委員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。この報告書、とりわけ外部評価委員の意見というあたり、あるいは、これまでの会議録等も見させていただきました。非常に丁寧に、あるいは好意的な評価をいただいていることをありがたく思っています。

私は教育長に就任したときに、草津のこれまでの強みであったり、学校や地域、あるいは関係機関であったり、専門機関であったり、いろんな強みというものをどう活かしていくか。もっとわかりやすく言いますと、それをそのまま活用することとともに、強みと強みをつなげることによって、新たな強みを生み出していこうと、そんなことを1つ話をさせていただきました。

今回の会議録等、委員さんの御意見、御提言等の中には、草津の強みとして、私たちが自信を持って良いというようなことをたくさんお教えいただきましたし、それらを今後、行政の中でしっかりと活かしていきたい、つなげていきたいというふうにも思っております。

子どもの教育は非常に充実してまいりました。県内の他市町をリードするような、あるいは全国に誇れるような、そんな実践も生まれてまいりました。そういった意味で、ますます、今のこの勢いを維持しながら、更には質的な向上を目指しながら、取り組んでいきたいと思っておりますし、学校教育だけではなく、社会教育の分野におきましても一層力を入れて、全ての市民が生きがいを持てるような、そんな草津の教育行政につなげていきたいというふうに思っています。本当にありがとうございました。

糸乗委員長

どうもありがとうございました。

続いては、今、自己紹介と感想も兼ねてお話しいたきましたので、これからは、副題の方、これからの教育委員会に期待することを柱に、意見交換をしたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

何か御意見をいただければ。

馬場委員長

委員さんからも指摘されていることなんですが、32ページにも載っているように、やはり授業が一番大事だというふうに学校は考えているというふうに言われていますので、それは、皆同じ思いなんですが、それを支えるいろんな

機器を草津は導入したり、図書館のこともかなり整備したりという形で、周りも随分と、それから人も、たくさんの方が配置されていますので、そういう点ではかなり努力をしてもらっているところなんですけど、その中で、良い環境の中でやっぱり大事なものは、授業をしていく先生がたの力が本当についているのかどうか。スキルアップアドバイザーという、そういうシステムを組んでもらっていて、教師の力をつける、そういう配慮もいっぱいなされているんですけど、私はこれからの草津市は原点に戻って、授業がきちんとできる、そして、それが良い授業やということ周りの先生がわかる。こういうふうな授業をしていくと、こういう機器も生きてくるし、子どもの表情も変わってくるし、力もついてくるんやということ、もう一回、今、原点に戻る、そういうときかなというふうに考えています。是非、授業力アップのために、現場にはがんばってもらいたいな。それを教育委員会が支えてやってほしいなというふうに思っています。

糸乗委員長

関連してとか、何かございませんでしょうか。

それに対する施策のところはかなりたくさんありますが、御説明していただいていたなというふうに感じます。先生がたの研修であったり、僕もそのときにお話させていただきましたけれど、やはり、今までのという言いかたは、僕もそこまで知っているわけではないんですけども、多分、年齢構成として、学校の中でも実力のある先生がたがおられて、その先生がたが若い先生がたを教育していくという、学校内でのそういう仕組みがあったのが、少し崩れてきている部分もあって、それをサポートするために、研修会等を実施していただいているんだなというふうに感じましたので、やっぱりそういうところが必ず必要であるし、そういうところを確実に見出してあって、こういう事業として展開されているんだなというところを非常に高く評価したというんですか、そういうところはすごくうれしく感じました。

実際の機器に関しても、本当に珍しいというか、iPadのようなものを、ああいう機器を大々的に導入していただいているというのも、非常に良い取組だと思いますし、そこから次というところですね。そこから、どうしても先生がたの御活躍というか、確実にそれぞれの学級で、子どもたちの前で授業をされるというところまでですよ。そういうのも少し時間はかかるんだろうなと思いつつも、今後、すごく期待しているところです。

馬場委員長

多分、この部分については、他の市町とか、県とかのレベルじゃなく、草津市独自の、すごい高いレベルのものやというふうに思っています。山川委員さん、前、学校現場にいっては、何年か前やのに、随分とさま変わりしている

から、きつものすごいびっくりしはったと思うんです。それが、この何年間の草津市のがんばりやったと思うんですけど。それがあって、なおかつ、足元をびしっと固めるというか、そういうことが必要なときかなと思います。

麻植教育委員

今、馬場委員長の方から、学校でのがんばり、ほかの追隨を許さないぐらいのがんばりを、本当に私たちも中に入って、学校もいろいろ回らせていただいて、がんばっておられるのも目にはしているんですけど、片や、文化面というところが、私はこれからの本当に大きな取組の柱になるのではないかなと思います。1つの理由は、この1月に創造館が我が草津に来ます。ホールを2つ持つ市というのは、そんなにたくさんないかなと思うんです。文化行政をどうしていくか。ミッションとビジョンをしっかりとしながら、それを教育面に活かしていく。教育面だけではなく、これは草津に住んでいてよかったという、誇りを持つというものにもつながりますから、観光のところにも、またつながっていくでしょうし、部局を超えて、これから草津の文化をどういうふうにしていくかという考えどころの大きな転換期にしていかなければならないのじゃないかなというふうに思っています。

ここの点検評価の中でも、いろんな音楽祭、文化祭、俳句大会、美術展、いろいろあるんですけども、やっぱり単発の色合いが濃い。それは、点検評価の中では、それがそういうふうに連携してやっているか、やっていないかというところの評価みたいなものを、やっぱり施策の中でうたっていない限りは、そこら辺の見かたがちょっとしにくいのかなと思うので、例えば、草津の芸術祭のような感じで、もうちょっと見直す。それに子どもたちも巻き込む、市民の文化振興という形だけではなく、市民には子どもたちもいますし、産まれて来た子育ての真ただ中のかたもおられますし、全て含んで教育委員会、生涯学習課の中に文化部門が今はありますから、逆に主導的な提案をしながら、市民のかたがたと一緒に変えていければなというふうに思っています。

本当に、ことし、基本計画の見直しなので、22年に市で基本計画ができました。23年に県で、滋賀県文化振興基本方針というのが出ています。これは22年に草津ができて、文化の県の方が23年ですから、この教育基本計画の中に網羅されていないです。年数的な流れとして。もう一度、これを踏まえて、検討していくのも大切なことではないかなと思っています。先ほどから、教育長もおっしゃっていたみたいに、学校の子どものための教育も大事、社会教育も大事と、この2本の柱をしっかりとらえていければ良いかなと思っています。

糸乗委員長

いかがでしょうか。

生涯学習も含めて、教育委員会の方で実施していただいているところ

で、こういう事業の御説明等もいただいている、やはりその中でも、意識していただいていたなと感じるのは、子どもたちと一緒にするような行事ですね、そういうところはかなり意識しておられたんじゃないかなというふうに思いました。具体的には僕も少しコメントはしたんですけども、草津の宿場のあたりですね、あのあたりの歴史的に有意義なものがあるところの付近の小学校ですね。それに対して出前授業をされているというような話があったんですけども、そういうのは実際には1回だけじゃなくて、ずっと常にやっておられることですので、そういった意味で、ふるさとというか、地元というか、そういう意識はかなり高く、その中から子どもたちから含めてずっと、麻植委員がおっしゃったように、市民とも一緒にかかわりながら、当然、親とかを含めての活動につながっているんだなというふうには、感じておりましたので、そのあたりをどういふぐあいにうまく融合していくかというところが課題だとは思いますが、確かに市民で、町内で活動されている部分と、子どもたちが学校でやる活動の部分とを少しずつでも、つなげていけるような取組があれば良いんだろうなというふうに感じました。実際にやっておられるところは、報告書の方から、僕の方は感じたということをつけ加えさせていただきたいと思っています。

麻植教育委員

ふるさと探検とか、そういう地元の学区に子どもたちが出ていってとか、そういうことは実際のところ、やられているんです。この点検評価の56、57のところを書いているんですけども、郷土愛を育む地域づくりの推進となっていますが、例えば予算をつけて修復したりとか、そういうものだけではなくて、これも山川委員さんがおっしゃってくださったんですけども、そしたら、その伝統行事、どんどん人口が少なくなって、子どもたち少なくなっているけれども、それをどう存続していくか。それと、それを市民の皆さんが知っておられるかどうか。広報的なものが。本陣はまだ市の中心にありますから、学習でも取り入れられているかもしれないですけども、神社の氏子さんが守っておられる伝統行事なんかは、本当にどういうところに問題点があるのかというのを、そして教育委員会はどれだけ吸いあげていて、それにどれだけの応援、手当てをしているか。それを市民のかたがたに知ってもらう広報活動をどれだけしているかというふうなことの課題はあるのかなと思うんです。それが本当に郷土愛につながっていき、草津だけではなくて、全国的にいろんな伝統行事、祭りがなくなっていっているというのが現状なので、草津もやはり歴史が香る市だと思うので、そういうふうな観点から、そこももう少し予算をつけて修理しましたというだけではなく、存続、継承の部分。これは学校教育でどれぐらいできるのかな、例えば市民の、地域でどれぐらいできるのかなとか、知恵を

持ち合いながら、支えていくのはどうしようかという話し合いの場みたいなものは、今はないのかなというふうに感じるので、ちょっと吸いあげていただけたらうれしいなど。

糸乗委員長

ということは、この外部評価委員会の中で取りあげて、教育委員のところで、いろいろと御意見をいただければ良いということになるのでしょうか。

山川委員

伝統芸能というふうに、今、麻植委員がおっしゃったように、それぞれの地域に上笠とか下笠とか、印岐志呂とか、あのあたりにもいろんな、お祭りのときに子どもたちが発表するような行事があるのを、そこへ行けばわかるんですけども、私も一度見て、すごく感動したことがあります。子どもたちはこんなことをしているんだというのを。そういうのを、その地域だけにとどまらず、それこそイベントのときに、されているのかもしれないんですけども、ちょっと私自身が見ていないのでわかりませんが、継承とともに、見る者も感動するような、新しいことばかりではなくて、そういうものも、例えば衣装1つにしても、すごいなと思ったりもします。祇園祭りとかと一緒に。そんな大きなものじゃないですけども、目の前に草津の子どもががんばっている姿、すごく涙が出るような喜びですので、そういう機会をもう少しふやせば良いのかなというふうに思います。

村山教育委員

そういう地域とのつながりというのは、やっぱりすごく大事ななというふうには、いろいろな事件等も起きていますけれども。あと、核家族化が進んでいますよね。実際、私のうちもそうなんですけれども、子どもが祖父母とかかわる機会というのがすごく少なくて、遠方で住んでおまして。祖父母の側からしても、孫とかかわる機会がどうしても少ないので、それを地域の中で、せっかく草津というのは古くから住んでらっしゃるかたも多いし、私自身も10年前に初めて滋賀に暮らしはじめていますので、全く地域とのつながりというのがなかったので、地域と行政がリードして、そういうふうには地域とかかわりを持ってもらえるというのは、本当にありがたいことなので。ただ、今、地域の人材がマンネリ化というか、人材がちょっと不足というか、困っている部分もあるというのが1つの問題でもあるので、その辺もこれから、いろいろ対策というか、考えて、是非続けていってほしいなというふうに思っています。

馬場委員長

この点検評価の中では、そういうことをちらっとにおわせてある部分はあって、私も現場の学校にいましたので、もう何年も前のときに、子どもたちの登下校の見守りを地域にお願いして、学校はお金がないので、地域で持つてはる

お金で、見守りの人だとわかるようにジャケットを買ってもらえへんやろかっ
と言ったら、地域がしたろうと言わはって、たくさんのジャケットをそろえて
もらって、見守りをしてくださったんです。それはずっと、どこの地域も続い
ているんですが、この中に書いている悩みで、だんだんそういう人たちが減り
つつあるような、これから新しい人たちに入ってもらわなくてはならないとい
うところへんに、やってきたけれど、何年もたってくると、少しずつそういう
ところへんの、続けていく難しさみたいなものを感じて、でも、何らかの形で、
また風を吹き起こして、それをもう一回していかなあかんのかなというふう
に思ったりで。ただ、地域はすごく、草津の場合は、私もいくつかの学校を回っ
たんですが、協力的であることは確かで。ただ、そういう人たち、少し高齢に
なられて、次の世代というのが、私はもうわからなくなっているので、そこら
へんのところを発掘していくのは難しいかなというふうに思います。

それから、文化財のかたたちも、学校に出前に行くという形で、単に飾って
おくだけではなくて、積極的にやりたいというのを、よく教育委員会の中でも
報告があって、よく聞かせてもらっているんですが、何とかそれを皆の目に触
れさせたいという思いはすごく職員の中に持っておられるということも、よく
伝わってきます。それをどういうふうな施策でやっていくかというのは、今後
の取組によってくると思うんですが、学校に出かけてもらっているのは、それ
はすごくありがたいなというふうに思います。

谷川教育委員

話は変わりますがけれども、昨日、企業に勤めている同級生と話をしていたん
ですけれども、なかなか自分から積極的に仕事を見つけてやれないという子が
多いというような話をしていました。予算を100万円つけるから、じゃ、こ
れで考えろと。何をして良いんですかという、そういうふうな動きになると。

草津の場合は、新学力テストの点数に、そうこだわらないようには思いま
すけれども、そうじゃなくて、総合型とか、そういった面から、探求心とか、
社会に適合できる、そういう力を組み入れてもらっているとは思いますが、
マスコミに流されることなく、そちらにもう少しウエイトを置いた取組を
充実して行ってほしいなというふうには思っています。きのうの話から、そん
なことが教育の中で大事じゃないかなというふうなことを思いましたので。

糸乗委員長

具体的に、どの部分でそのあたりをサポートできるでしょう。

谷川教育委員

35、36ページの中に、総合型の話が少し載っているんですけれども、そ
の中で地域の力も借りながらというのはもちろんなんですけれども、だんだん、
総合型の時間が減らされたりとかしているわけなんですけれども、これはこれなり

に、重要な内容があると思うので、自分でテーマを見つけて探求する、あるいはグループで考えるという力を育てていくことが大事じゃないかなというふうに思います。

糸乗委員長

企業のトップクラスのかたを招いてのお話を聞いたりして、そういう意識を高めるという授業をされているのをお聞きしたんですけれど。

谷川教育委員

授業じゃなくて、たまたま、きのうは用事で出会ったので。企業の中で、入ってくるんだけど、なかなか自分で立案とか、そういうことができない、そういう力がついていないので、そこがもう少し必要なのかなという話をしていましたので。草津の中にも取り入れることが大事かなというふうに思いました。

糸乗委員長

大人になってからというところも含めてですね。

村山教育委員

先ほどのICTの話ともつながってくるのかなというふうに、今のお話を伺っていて思ったのは、機械がポンと与えられました。それで、受け身になってしまっただけでは、それが一番いけないと思うので、馬場先生も最初におっしゃったように、原点に戻って教育されていくことが大事というのは、それはあくまで1つのツールに過ぎないという、それはふだん、教育委員会の方でも当然のこととして挙げておられるのですけれども、例えば保護者のかたなんかでも、もしかしたら良い面もあるし、不安に思っているかたもいらっしゃるかもしれないですね。本当に、物って使いかたひとつで、良くもなるし、悪くもなるので、絶対に受け身にならずに、それを1つのきっかけとして、そこから世界が広がるような、そういう良い道具として、きっかけとして教育に活かしてほしいなというふうに感じます。

糸乗委員長

実際、今年度から入って、実施されつつあるという状況ですので、これからいろいろと話が出てくるんだろうなと思います。そのための準備として、昨年度から続けて、先生がたも、実際に教育されていって、使える先生がたを育てるところがありましたので、そこから、その次、実際の学校の教室での使用方法であるとか、そういうところを見守るというのでしょうか、期待してきたいなというふうに思います。

教育長

タブレットは3, 200台、ことし、全国でも例のないぐらいの規模で導入するわけですが、1つは基礎、基本をそれによってつけるということは、繰り返し学習等、あるいは子どもの興味等を大事にしながらということ、もちろ

んあるんですけども、そのほかにタブレットを使って、教室でいいますと、いろんな友達の見解と交流したりとか、子どもたちの表現とか言語の力を育てようというところにも、かなりウエイトを置こうと思っております。とは申しますものの、今、申しましたように、まだ、先駆けの実践でもありますので、市内のいくつかの学校において、研究的に取り組みながら、成果を出したり、あるいは具体的な指導法を開発したりということで、世界的な傾向の中では、こういったものがどんどん使われているという、そういう情勢もありますので、草津らしい勢いのある中で、先進ですけども、地道には取り組みたいというふうに思っております。ねらいをしっかりと持ちながらと思っております。

糸乗委員長

何かほかにございませんでしょうか。

時間の方が迫ってきておりますが、最後に何か、大丈夫でしょうか。

麻植教育委員

1つだけ良いですか。38ページなんですけれども、小1プロブレムというのが、注釈でも出ているんですけども、草津市が行き渋りの子が多いというのを聞きましたので、どうしても市長部局に幼保一体化の関係で、雑談のような形で、日ごろやってられた幼児課との関係が、今は離れてしまっているので、特にここを意識しておかなければだめなのかなというのをちょっと思いました。

ここの評価もAになっていますが、小中学校の間の連携はしっかりかもしれないですが、そこをちょっとしっかり見ていただいたら良いなというふうに思います。

糸乗委員長

ありがとうございました。

まだまだ、いろいろとお話したいところもございまして、予定の時刻も来ておりますので、一応、これをもちまして、教育委員の皆様と外部評価委員の懇談を終わらせていただきます。

馬場委員長をはじめ、教育委員の皆様、外部評価委員の皆様、ありがとうございました。

本日の懇談や外部評価における意見が、今後の草津市の教育に少しでもお役に立ていただければと思います。

それでは、本日の懇談会は終了いたしましたので、事務局に進行の方をおわたしいたします。

教育総務課長

委員の皆様、ありがとうございました。

また、糸乗委員長様には委員会を進行いただきまして、大変お世話になり、まことにありがとうございました。

今後は、本日の懇談の会議録をまとめさせていただいた後、草津市教育委員会事務の点検及び評価の報告書（平成25年度）として、8月の定例教育委員会にお諮りさせていただき、議決をいただいた後、市議会に報告するとともに、市のホームページなどで公表してまいりたいと考えております。

それでは、これで教育委員会事務外部評価委員会を終了させていただくことといたします。

委員の皆様、大変ありがとうございました。

閉会 午後2時17分